



爬虫類 *Reptiles*

弥栄ダム周辺には、多様な爬虫類が生息しています。

主に山地の森林に生息する種や、草地に生息する種、農耕地から山地まで広範囲に生息する種、ダムサイト周辺の人工物に生息する種などがみられます。特に森林を利用するヘビ類が多く、これは餌となるカエル類が弥栄ダム周辺の山地に多く生息していることを表しています。

ここでは、弥栄ダム周辺で見られる代表的な11種を紹介します。

ニホンイシガメ *Mauremys japonica*



- **分類**
カメ目イシガメ科
- **重要種指定**
準絶滅危惧【環境省】
準絶滅危惧【広島】
準絶滅危惧【山口】

特 徴

甲羅の長さはオスで最大約14cm、メスで最大約21cmでメスの方が大きい種です。甲羅の中央に1本の隆起があり、甲羅の後ろはギザギザになっています。甲羅の色はくすんだ黄色で、腹は黒色です。雑食性で、水草、貝類、魚類、昆虫などを食べます。ふ化して間もない子ガメは甲羅が丸いことから「ゼニガメ(銭亀)」と呼ばれ、昔から夜店などで売られて飼育されてきました。

生息場所

河川や湖沼、池、水田などに生息します。弥栄ダム周辺では、弥栄湖およびその周辺、弥栄湖上流の小瀬川、長谷川で見られます。

繁 殖

産卵期は6～7月。年1～2回繁殖し、1回に平均7個の卵を産みます。生息場所周辺の河川や池の近くで、土中に穴を掘って産卵します。ふ化は産卵から2～3ヶ月後です。

生活サイクル

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	場所
産卵期						■	■						河川や池近くの土中の穴
出現時期	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	河川や湖沼、池、水田など

ニホンヤモリ *Gekko japonicus*



- **分類**
有鱗目ヤモリ科
- **重要種指定**
指定なし

特 徴

全長は9～14 cm。

背面は灰色ですが、短時間で濃い茶色～薄い灰色まで変化します。体はひらたくて目が大きく、背面と足は細かい粒状のウロコでおおわれており、ところどころに粒の大きなウロコがあります。足の指の裏側には、表面に細かい毛の生えた幅の広いウロコ（指下板）があり、これがすべり止めの役割を果たすことで垂直な壁や窓のガラスでも登ることができます。

ふだんは人家の周辺にすみついて、クモ類や昆虫類を食べています。

害虫を食べるヤモリは「家守」、「守宮」と呼ばれ、昔から家を守る動物として知られています。大きさや形はタワヤモリに似ていますが、背面に粒の大きなウロコがあることで区別できます。

生息場所

人家やその周辺に多く生息します。

弥栄ダム周辺では、ダム下流の小瀬川、弥栄湖およびその周辺で見られます。

繁 殖

産卵期は5月上旬から7月下旬。

年1～2回繁殖し、1回に2～3個の卵を産みます。人家内や壁のすき間、天井裏などに産卵します。卵は40～90日でふ化し、オスはふ化の翌年、メスは約2年後から成熟すると考えられています。

生活サイクル

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	場所	
産卵期					■								人家内や壁のすき間など	
出現時期				■										人家やその周辺

タワヤモリ *Gekko tawaensis*



- **分類**
有鱗目ヤモリ科
- **重要種指定**
準絶滅危惧【環境省】
絶滅危惧Ⅱ類【広島】
準絶滅危惧【山口】

特 徴

全長は10～14 cm。
 背面は灰色で、背面と足は細かい粒状のウロコで覆われています。足の指の裏側には、表面に細かい毛の生えた幅の広いウロコ（指下板）があり、これがすべり止めの役割を果たすことで壁が垂直でものぼることができます。
 ふだんは岩場にすみ、小型の昆虫類を食べていますが、岩場近くの神社や人家ではニホンヤモリと一緒にみられることがあります。
 大きさや形はニホンヤモリに似ていますが、背面に大型のウロコがなく、一様な細かいウロコにおおわれていることで区別できます。

生息場所

海岸近くから山間部にかけての岩場に生息します。
 弥栄ダム周辺では、弥栄湖およびその周辺で見られます。

繁 殖

産卵期は、6月下旬から8月上旬。
 日当たりのよい岩の割れ目などに産卵します。同じ場所に産卵を繰り返すこともあります。卵は約50～60日でふ化し、約2年で成熟します。

生活サイクル

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	場所
産卵期							■	■					日当たりのよい岩の割れ目
出現時期				■	■	■	■	■	■	■	■	■	海岸近くから山間部にかけての岩場

ニホントカゲ *Plestiodon japonicus*



- **分類**
有鱗目トカゲ科
- **重要種指定**
準絶滅危惧【広島】

特 徴

全長は16～25 cmで、尾は長く、体長の半分以上を占めています。体はやや太く、手足は体にくらべて短く、光沢のある滑らかなウロコにおおわれています。体のわきにははっきりとした黒色の太い縦線があります。繁殖期のオスは、アゴやノドがオレンジ色に変化します。幼体の背面は黒っぽく目立つ金色のたて線があり、尾は鮮やかな青色をしています。日当たりの良い場所を好み、ミミズやクモ、昆虫を食べています。天敵に襲われると尾を自分で切ることがあります。切れた尾は激しく動き、敵の注意をそらす役割をします。特に幼体の尾は目立つ色であり、身を守る効果が高いと考えられています。

生息場所

平地や低山地の陽当たりよい石垣や草原、土手に生息します。弥栄ダム周辺では、ダム下流の小瀬川、弥栄湖およびその周辺で見られます。

繁 殖

産卵期は5～6月。石や土手の斜面などに巣穴を掘って産卵します。1回に3～6個の卵を産みます。メスはふ化まで卵の世話をします。卵は30～50日でふ化し、約2年で成熟します。

生活サイクル

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	場所
産卵期													石や土手の斜面の巣穴
出現時期													陽当たりよい石垣や草原、土手

ニホンカナヘビ *Takydromus tachydromoides*



- **分類**
有鱗目カナヘビ科
- **重要種指定**
指定なし

特 徴

全長は18～25cmで、尾の長さが全体の3分の2を占めています。
体は細長く、背面は薄茶色で、黒いたて線があります。ニホントカゲと似ていますが、ウロコに光沢がなくざらついていることで区別できます。
乾燥している草地の周辺で多くみられ、昆虫類やクモ類を食べています。
名前は「ヘビのように細長いかわいらしい」ことから、「愛ヘビ（かなへび）」と呼ばれるようになったとされています。

生息場所

平地や低山地の陽当たりのよい石垣や、背丈の低い草原に多く生息します。
弥栄ダム周辺では、ダム下流の小瀬川、弥栄湖およびその周辺、弥栄湖上流の小瀬川、長谷川など広い範囲で見られます。

繁 殖

産卵期は5月中旬～7月。
年に3～4回繁殖し、1回に2～6個の卵を産みます。草の根元などで産卵します。卵は約2カ月でふ化し、約1年で成熟します。

生活サイクル

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	場所
産卵期					■								芝生や草の根本
出現時期			■										平地から低山地の石垣や草原

タカチホヘビ *Achalinus spinalis*



- **分類**
有鱗目ナミヘビ科
- **重要種指定**
指定なし

特 徴

全長は20～60cm。
 体色は黄色みのある茶色で、光の加減で虹色の光沢を放ちます。背中にははっきりとした黒い縦線があり、ウロコは粒状に丸く盛り上がっています。
 地中に潜って生活していると考えられており、人目に付くことはあまり無いヘビです。おもにミミズを食べます。

生息場所

山地のやや湿り気のある岩場や倒木の下などに生息します。
 弥栄ダム周辺では、長谷川で見られます。

繁 殖

産卵期は7月中旬～8月中旬。
 1回に3～13個の卵を産みます。卵は9月ごろふ化します。

生活サイクル

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	場所
産卵期							■						湿り気のある岩や倒木の下と考えられています
出現時期			■										山地のやや湿り気のある岩場や倒木の下

シマヘビ *Elaphe quadrivirgata*



- **分類**
有鱗目ナミヘビ科
- **重要種指定**
指定なし

特 徴

全長は70～150 cm。

体色は黄土色で目のひともみは赤く、背面に4本の黒い縦じまがあります。体色には変異が多く、カラスヘビと呼ばれる黒色のものや、背面の縦じまがないものも存在します。また、幼体には横じまがあるので、マムシなどと間違われることがあります。

カエルなどの両生類、ヘビやトカゲなどの爬虫類、鳥類、ネズミなどの哺乳類といったさまざまな動物を食べています。

ふだんは山地、耕作地、草むらで生活していますが、エサを探して水辺に現れ、水面を上手に泳ぐ姿がみられることもあります。

生息場所

平地から低山地にかけての草原、水田、樹林など様々な場所に生息します。

弥栄ダム周辺では、ダム下流の小瀬川、弥栄湖およびその周辺、弥栄湖上流の小瀬川、長谷川など広い範囲で見られます。

繁 殖

産卵期は7～8月。

土中や石垣のすき間、落葉の下などに産卵します。1回に4～16個の卵を産みます。卵は40～50日でふ化し、約30cmの子ヘビが生まれます。

生活サイクル

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	場所
産卵期							■	■					土中や石垣のすき間
出現時期			■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	草原、水田、樹林など

アオダイショウ *Elaphe climacophora*



- **分類**
有鱗目ナミヘビ科
- **重要種指定**
指定なし

特 徴

全長110～200cm。

体色はオリーブ色で、4本の不明瞭な縦じまがありますが、シマヘビほどはっきりとはしません。また幼体には横じまがあるので、マムシなどと間違われることがあります。腹面は背面より色が淡く、虹色の光沢があります。頭部は長く、口先に向かいとがっています。黄色い目をしています。木の上や人家の周辺で生活し、おもにネズミ類や鳥の卵などを食べます。

シマヘビと似ていますが、目のひとみが赤くないことで区別できます。

山口県岩国市では、体が白く変異した「シロヘビ」のアオダイショウが、昔から金運の守り神として大切にされています。

生息場所

平地から山地の河岸や水田の畦に多く生息します。

弥栄ダム周辺では、ダム下流の小瀬川、弥栄湖およびその周辺、長谷川で見られます。

繁 殖

産卵期は7～8月。

朽ち木や大きな石の下など湿った所に産卵します。1回に4～17個の卵を産みます。卵は約50日でふ化し、約40cmの子ヘビが生まれます。

生活サイクル

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	場所
産卵期							■	■					朽ち木や大きな石の下
出現時期				■	■	■	■	■	■	■	■	■	河岸や水田の畦など

ヒバカリ *Amphiesma vibakari vibakari*



- **分類**
有鱗目ナミヘビ科
- **重要種指定**
指定なし

特 徴

全長は30～60 cm。

体色はチョコレート色～黒っぽい茶色で、首の部分にある黄色い帯が特徴です。腹面は淡い黄緑色で、その両側には黒斑が点線のように連なっています。頭部は比較的小型で、眼は大きく、丸い黒の瞳孔をもっています。ウロコひとつひとつには明瞭な縦の隆起があります。

夜行性で人目につきにくく、カエルやオタマジャクシ、ドジョウ、ミミズなどを食べています。ヒバカリは、「かみつかれたらその日ばかりの命」という迷信に基づいて名付けられましたが、実際は無毒で性質はおとなしく、人にかみつくことはほとんどありません。

生息場所

低山地の河川敷や森林、田畑の石垣のすき間などに多く生息します。弥栄ダム周辺では、弥栄湖およびその周辺、弥栄湖上流の小瀬川で見られます。

繁 殖

産卵期は7～8月。

地上の物陰に繁殖します。1回に4～10個の卵を産みます。卵は約36日でふ化し、約15cmの子ヘビが生まれます。

生活サイクル

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	場所
産卵期													地上の物陰
出現時期													河川敷や森林、田畑など

ヤマカガシ *Rhabdophis tigrinus tigrinus*



- **分類**
有鱗目ナミヘビ科
- **重要種指定**
指定なし

特 徴

全長60～150 cm。

背面はやや赤みがかった白に黒の模様があるものが多くみられますが、色彩は地域により異なります。全体的に黒っぽいことが多く、地域によっては「カラスヘビ」と呼ばれることがあります。口先は丸く、大きな目をしています。

山の中や水辺でみかけることが多く、ドジョウや小魚、カエルを食べています。

毒をもっており、深くかまれると口の奥にある牙から毒が入ることがあるので、むやみにさわらないよう注意しましょう。

生息場所

平地や山麓の小川、水田の周辺に多く生息します。日本の水辺では最も普通に見られるヘビのひとつです。

弥栄ダム周辺では、弥栄湖およびその周辺で見られます。

繁 殖

産卵期は6～8月。

土中や石の下、落葉やわらの下などに産卵します。1回に6～43個の卵を産みます。卵は30～50日でふ化し、約22cm子ヘビが生まれます。3年で85～100cmに成長します。

生活サイクル

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	場所
産卵期						■	■	■					土中や石の下など
出現時期				■	■	■	■	■	■	■	■	■	水田や小川などの周辺

ニホンマムシ *Gloydius blomhoffii*



- **分類**
有鱗目クサリヘビ科
- **重要種指定**
指定なし

特 徴

全長40～60 cm。

背面は黄土色または赤みのある黄土色で、黒くふち取られただ円形の模様（銭型模様）が並びます。頭部は三角形で、あご周辺でくびれ、頭部が大きくみえます。全体的に太く短い体で、尾も胴体から急にくびれます。瞳孔は黒く縦に切れるだ円形です。

夜行性ですが昼間に日当たりの良い場所でみかけることも多く、カエルやネズミ、他のヘビなどを食べています。

昔から毒ヘビとしてよく知られています。上アゴ前方に毒牙があり、かまれると重症化するおそれがあり危険なため、むやみにさわらないよう注意しましょう。

生息場所

平地から山地にかけての河川敷、竹林、水田の畦、畑などに広く生息します。

弥栄ダム周辺では、弥栄湖およびその周辺で見られます。

繁 殖

産卵期は8～10月。

体の中で卵を持つ卵胎性で、深夜から明け方にかけて水辺の草地などで、5～6匹の子ヘビを直接産みます。産まれた直後は約20cm、3年後には45～55cmに成長します。

生活サイクル

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	場所
産卵期								■	■	■			水辺の草地（卵胎性）
出現時期			■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	河川敷、竹林、水田の畦、畑など